

平成26年7月

親孝行はいつするの

古田土会計では毎年4月21日～5月20日を「親孝行月間」とし、全社員で実践しています。新入社員は初めての給与で親にプレゼントを渡し、お礼の挨拶をしながら親孝行したことを証明するため、プレゼントをしている姿を写真に撮って会社に提出してもらいます。今年も11名の新入社員から写真の提出がありました。そのなかにも母親の足の裏を洗った写真がありました。森本信成さんの親孝行レポートを一部抜粋します。「お風呂場で足の裏を洗わせていただきました。母親の足は思ったよりもずっと小さく、足を洗った母親は先程の謝辞よりも喜んでくれました。喜んでくれるなごまた洗ってあげようかなと思いました。親孝行は多くの気づきを与えてくれます。では親孝行はいつするの、今ではありません。自分の誕生日です。

自分が卒業した学校を母校といい、父校とは言いません。私は法政大学を出ていますが、私の父校は法政大学です」といふと人生の不幸の原因が法政大学にあるように誤解を与えます。人は母親が生んでくれます。自分を生んでくれた母親に感謝する日その日が誕生日です。自分の誕生日に母親に「生んでくれてありがとう」と言ってプレゼントを渡すのです。父親は生んでくれていないので何も渡す必要はありません。母親だけにプレゼントするのがポイントです。

7月29日土用の丑の日です。鰻を食べます。何故鰻なのか。江戸時代に平賀源内が「土用丑の日には鰻を食べましよう」という日本で最初の販売キャンペーンをやった習慣として定着したからです。バレンタインデーに女性が男性にチョコレートを贈るのもメリーチョコレートの原社長が考えたことです。売子が買子に買う理由を教える必要はない。買子が買っているわけですから。5月の第2日曜日の母の日にはカーネーションを贈る理由や6月の第3日曜日の父の日には決まったものがないのも考えてみて下さい。花屋さんのビジネスで考えてみると母の日にはカーネーションが売れても1日だけです。売上として不安定です。一年中花を売る理由として「親孝行の日」として自分の誕生日に「お母さん生んでくれてありがとう感謝の印として1000の花を母親に贈りましよう」というキャンペーンをやった。一年中その花が売れるのではないでしようか。他の業種でもお客様に買う理由を教える必要はない。自分の誕生日にお母さんにプレゼントをする商品が売れます。お客様は神様ではない。弟子です。売子に導かれて、気づかされて買っています。

日本人は親が亡くなった後にやっと親孝行しておけばよかったと後悔するのが不思議だ」と日本人を夫に持つモンゴル人の女性歌手が言っていました。親が自分より早く死ぬのはわかっているのだから後悔しないように親が元気なうちに親孝行すべきです。自分の誕生日に親孝行する他に国民の祝日として「親孝行の日」として親や先祖に家族で感謝したほうが日本人の気持ちはあがるのではないでしようか。経済優先の海の日や山の日を祝日にするより、親孝行の日には子供が親に感謝の言葉を話すことにより、両親の心を知り、人に感謝すること、人に喜ばせることが自分にとって最大の幸せであることを気づかせてほしいと思います。社会人、仕事の本質は親孝行にあります。自分の両親に感謝する心、気づきがあってこそお客様に感謝する心持ちが持てます。人間性を高め、社会の役に立つ人材を育成するためにも親孝行は大事です。